

平成21年 3月 31日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18520442
 研究課題名（和文）仏語クラスにおける会話参加者のアイデンティティと関係性の（再）構築についての研究
 研究課題名（英文）Recherche sur la (re)construction de l'identité et de la relation des sujets-participants de la classe de langue
 研究代表者
 石川 文也（ISHIKAWA FUMIYA）
 ・横浜市立大学・国際総合科学研究科・准教授
 ・60295524

研究成果の概要：

外国語としてのフランス語クラスにおいて、実際に発せられたことばであるディスカールの中で、あるいはそれによって、教師および学習者のアイデンティティがどのように（再）構築されるのか、また教師と学習者の関係性がどのように（再）構築されるのかを、ディスカール分析の視点、特にディスカールが発せられる前にはアイデンティティも関係性も潜在的にしか定義し得ない——あるいは、社会的に容認されているアイデンティティも関係性も、ディスカールによって再構築されるものであり、その意味においてそれらも学術的考察の対象となりうる——というダイナミックなディスカール分析の視点から明らかにした。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000	0	1,300,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	630,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：(1) フランス語、(2) クラス、(3) アイデンティティ、(4) 関係性、(5) ディスカール、(6) (再)構築、(7) 言語教育

1. 研究開始当初の背景

本研究は、研究代表者（石川）が主としてパリ第三＝新ソルボンヌ大学研究グループ（Cediscor（一般および特殊ディスカール研究センター）-SYLED（言語体系、発話とディスカール）、DELCA（教育のディスカール、接触の場のことば、言語習得／獲得）-SYLED、DELCA-DILTEC（言語、テキスト、文化の教育）、現所属機関（横浜市立大学）での個人研究および共同研究（研究奨励交付金研究）、また日本学術振興会科学研究費補助金萌芽

研究（平成15・16・17年度、研究課題：「仏語クラスにおける「知」の伝達プロセスについてのディスカール分析の視点からの研究」）の枠組みでおこなってきたディスカールを介して伝達される「知」の伝達プロセスに関する研究の、研究対象と研究内容を発展させるものであり、それぞれの研究によって以下の段階まで準備をおこなった。

・パリ第三＝新ソルボンヌ大学研究グループ（Cediscor-SYLED、DELCA-SYLED、

DELCA-DILTEC)における研究：外国語としてのフランス語のクラスにおける会話を収集し、グループ所属の研究者と議論を重ね、外国語教育の現場では「ことばの知」がディスカールを介してどのように伝達されるかを考察した。

・日本学術振興会科学研究費補助金萌芽研究（平成15・16・17年度、研究課題：「仏語クラスにおける「知」の伝達プロセスについてのディスカール分析の視点からの研究」）：日本の大学でおこなわれているフランス語の授業のいくつかに参加し、そこでの会話を録音し、コーパス（分析資料体）を作成し、そのディスカールの特徴を明らかにした。

2. 研究の目的

本研究は、主に M. Pêcheux、D. Maldidier ら、「*École française d'analyse du discours*」（ディスカール分析フランス学派）の研究者が1960年代末にフランスで唱えたディスカールの批判的分析の知的遺産を受け継ぎつつ、1960年代半ばにアメリカのカリフォルニア・パークレー校の社会学者 H. Garfinkel、H. Sacks らを中心に始められた批判的社会学——*ethnométhodologie*（エスノメソドロジ）——の考え方を援用して本研究代表者（石川）が主としてパリ第三＝新ソルボンヌ大学外国語としてのフランス語教育論専攻博士課程在学中より所属する研究グループ（Cediscor（一般および特殊ディスカール研究センター）-SYLED（言語体系、発話とディスカール）、DELCA（教育のディスカール、接触の場のことば、言語習得／獲得）-SYLED、DELCA-DILTEC（言語、テキスト、文化の教育））と日本学術振興会科学研究費補助金萌芽研究（平成15・16・17年度、研究課題：「仏語クラスにおける「知」の伝達プロセスについてのディスカール分析の視点からの研究」）でおこなってきたディスカールを介してなされる「知」の伝達のプロセスに関する研究の対象領域と研究内容を発展させるものである。パリ第三＝新ソルボンヌ大学では外国語としてのフランス語のクラスのディスカールの言語的特徴を、科学研究費補助金萌芽研究では日本におけるフランス語の授業のディスカールの特徴をそれぞれ明らかにしたが、本研究はこれらの研究成果をアイデンティティと関係性の（再）構築という視点から捉え直すことを眼目とする。具体的には、外国語としてのフランス語クラスにおいて、実際に発せられたことばであるディスカールの中で、あるいはそれによって、教師および学習者のアイデンティティがどのように（再）構築されるのか、また教師と学習者の関係性がどのように（再）構築されるのかを、ディスカール分析の視点、特にディスカ

ールが発せられる前にはアイデンティティも関係性も潜在的にしか定義し得ない——あるいは、社会的に容認されているアイデンティティも関係性も、ディスカールによって再構築されうるものであり、その意味においてそれらも学術的考察の対象となりうる——というダイナミックなディスカール分析の視点から明らかにすることが研究の目的である。

3. 研究の方法

まず、分析の対象となる会話を収集する。コーパス（分析資料体）は、すでにパリ第三＝新ソルボンヌ大学言語・文化教育論博士論文（Ishikawa 2001b）執筆のために収集したもの、日本学術振興会科学研究費補助金（萌芽研究）遂行のために日本国内のいくつかの大学で収集したものがあるが、分析結果にさらに一般性をもたせるために、新たに別の外国語教育機関で広く収集する。会話収集にあたっては、transcript（テープ起こし）の際に発話の話者を特定しやすくするために、デジタルビデオカメラを使う予定である。Transcript（テープ起こし）によってできたコーパス（分析資料体）は、ことばの検索をしやすくするために、データベースとしてコンピュータに保管する。テープ起こしの作業と平行して、エスノメソドロジ、インタアクション、ディスカール分析の関連基本文献の（再）講読を進める。また、作成できたコーパス（分析資料体）を、ディスカール——つまり、実際に発せられたことば——の中で、あるいはそれによって、ディスカールの形成・伝達に参加する者のアイデンティティがどのように（再）構築されるのか、また参加者間の関係性がどのように（再）構築されるのかをという視点から分析する。

4. 研究成果

外国語としてのフランス語クラスは、単に「ことばの知」あるいはそれに関わる「社会文化的知」の伝達の場ではなく、伝達行為を通して会話参加者（教師と学習者）がそれぞれ教師と学習者としてカテゴリー化され、それぞれのアイデンティティが教育・学習の対象であるフランス語との関係において、さらにはその伝達行為に関わる相手との関係において定義され、再定義されることを実証的に明らかにすることができた。特に、①伝達のプロセスの中で伝達の対象であるフランス語に関わる「知」のステレオタイプが（再）形成されること（Ishikawa, 2007b）、②フランス語に関わる「社会文化的知」も伝達対象となりうること（Ishikawa, 2007d）、③一般的に「知」の伝達には「言い換え（reformulation）」が使われること（Ishikawa, 2008b）、④そしてそのような言語行為を通して特定の「ことば

の知」が学習者の言語習得する上で必要なものであると表明され、学習者はそのような行為を受けるに値するものとして描写され、さらに教師はそのような行為が学習者の言語習得の上で必要だと考えていると自らを定義していること (cf. Ishikawa, communication présentée au colloque international : « Transmission/ appropriation des langues et construction des identités plurilingues », organisé à Paris par le groupe : PLURIFLES-DILTEC (Situations PLURILINGUES et Français Langue seconde-Didactique des Langues, des Textes et des Cultures) de l'Université Paris III-Sorbonne nouvelle, 6-9 juin 2007) が、具体的な言語行為を通して明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① ISHIKAWA, Fumiya (2008b) : “La description des apprenants dans et par les activités de reformulation de l’enseignant en classe de langue”, in M. Schuwer, M.-C. Le Bot & É. Richard (éds.) : « Pragmatique de la reformulation. Types de discours – Interactions didactiques », Actes du colloque international : « Voies de la reformulation. Contraintes – stratégies – objectifs », organisé à Rennes par le LIDILE (Analyse Ingénierie Didactique Langues et Langages Spécialisés) de l’Université Rennes 2-Haute Bretagne, 19-20 mai 2006, Rennes, Presses Universitaires de Rennes, pp. 241-251.
- ② ISHIKAWA, Fumiya (2007d) : “Le savoir socioculturel en classe de FLE de niveaux débutant et intermédiaire : une approche dynamique des dimensions socioculturelles de la langue”, in AIRDF (éd.) : « Didactique du français : le socioculturel en question », tirage sur un CD-ROM des communications du Dixième Colloque International de l’AIRDF (Association International pour la Recherche en Didactique du Français) : « Didactique du français : le socioculturel en question » organisé à Villeneuve d’Ascq par l’AIRDF, 13-15 septembre 2007.
- ③ ISHIKAWA, Fumiya (2007b) : “L’articulation de la transmission de savoirs et de l’introduction de stéréotypes (ou du stéréotypage) dans la classe de langue : une analyse interactionnelle de stéréotypes en discours didactique”, in H. Boyer (éd.) : *Stéréotypage, stéréotypes : fonctionnements ordinaires et mises en scène* tome 3 intitulé : « Éducation, école, didactique », Actes du colloque international : « Stéréotypage, stéréotypes : fonctionnements ordinaires et mises en scène. Perspectives interdisciplinaires », organisé à Montpellier par l’ARSER (Atelier de Recherche en Sociolinguistique et d’Étude des Représentations) de l’Université Montpellier III-Paul-Valéry, 21-23 juin 2006, Paris, L’Harmattan, pp. 119-130.

[学会発表] (計 4 件)

- ① ISHIKAWA, Fumiya : “Le savoir socioculturel en classe de FLE de niveaux débutant et intermédiaire : une approche dynamique des dimensions socioculturelles de la langue”, communication présentée au Dixième Colloque International de l’AIRDF (Association International pour la Recherche en Didactique du Français) : « Didactique du français : le socioculturel en question », organisé à Villeneuve d’Ascq par l’AIRDF, 13-15 septembre 2007.
- ② ISHIKAWA, Fumiya : “La négociation des images de soi dans et par le discours didactique : une analyse dynamique de l’articulation entre transmission de savoirs et (re)construction de l’identité en classe de FLE”, communication présentée au colloque international : « Transmission/ appropriation des langues et construction des identités plurilingues », organisé à Paris par le groupe : PLURIFLES-DILTEC (Situations PLURILINGUES et Français Langue seconde-Didactique des Langues, des Textes et des Cultures) de l’Université Paris III-Sorbonne nouvelle, 6-9 juin 2007.
- ③ ISHIKAWA, Fumiya : “L’articulation de transmission de savoirs et d’introduction de stéréotypes (ou de stéréotypage) dans la classe de langue : une analyse interactionnelle de stéréotypes en discours didactique”, communication présentée au colloque international : « Stéréotypage, stéréotypes : fonctionnements ordinaires et mises en scène. Perspectives interdisciplinaires », organisé à Montpellier par l’ARSER (Atelier de Recherche en Sociolinguistique et d’Étude des Représentations) de l’Université Montpellier III-Paul-Valéry, 21-23 juin 2006.
- ④ ISHIKAWA, Fumiya : “La description des apprenants dans et par les activités de reformulation de l’enseignant en classe de langue”, communication présentée au colloque international : « Voies de la reformulation. Contraintes – stratégies – objectifs », organisé à Rennes par le LIDILE (Analyse Ingénierie Didactique Langues et Langages Spécialisés) de l’Université Rennes 2-Haute Bretagne, 19-20 mai 2006.

[その他]

ISHIKAWA, Fumiya (2008) : *Recherche sur la (re)construction de l'identité et de la relation des sujets-participants de la classe de langue* (『仏語クラスにおける会話参加者のアイデンティティと関係性の(再)構築についての研究』), Rapport final de la recherche effectuée en 2006-2008 sous l'égide du fonds de la Société Japonaise pour la Promotion des Sciences (J.S.P.S.) (Kiban-kenkyû (C)) (平成 18 年度～平成 20 年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書), ronéotypé et broché.

6. 研究組織

(1)研究代表者

石川 文也

・横浜市立大学・国際総合科学研究科・准教授

・ 60295524

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし